

ひと

日本縦断自転車旅を映画にした「聞こえない監督」



いまむらあや 今村彩子さん(37)

映画「スタートライン」の被写体は「自分」です。沖繩から宗谷岬までの57日間、生まれつき耳が聞こえない自転車初心者が挑んだ悪戦苦闘の旅を、あるがままに映し出しました。

当初「旅先でのふれあいを描こう」とスタートしました。しかし、カメラマン兼伴走者の「哲さん」が撮った映像は、他者とコミュニケーションは、「コミュニケーション

が下手なだけ」と。下手なら練習すればうまくなる。希望がありますよね」。

友達と話せず孤独だった少女時代、父親が借りてきた字幕付きの洋画が心の支えでした。アメリカの大学で映像製作を専攻。東日本大震災で被災したろう者を追った映画「架け橋」などを手掛けてきました。

一昨年、理解者だった母親が急死。「前を見て生きるスタートラインをきろう」と日本縦断を決意します。旅で学んだのは、中途失聴ながら気負わず他者とコミュニケーションをとる外国人青年の姿勢でした。

「傷つきたくないから逃げてしまうけど、一歩踏み出す勇氣を持ってほしい。映画がそのきっかけになればうれしいですね」(9月3日、東京から公開)

文・写真 萩原 真里